

# 分苑たより

## なごこみ

大本  
名古屋分苑

### 分苑長 新年挨拶

フエリーチャンノヴァヤロン  
皆様あけましておめでとう  
ございます。

乙巳きのとみの元旦祭を寿ぐ名古屋  
分苑に参拝に來られた皆様と  
共にお伝えさせていただき誠  
にありがとうございました。

昨年は開祖さまのご神靈権  
姫君命をお祀りされているお  
香良洲神社と大本の長年の友  
好の証として境内に建ち上が  
った祈念碑「おからすのかみ」  
の除幕式に清めの雨の中、参  
拝者教主さまともども竹垣の  
楽譜に合わせて基本宣伝歌を



合唱させていただきました。

今年は今和五年みろく六年七の年とし  
最終年になり綾機平の整備事  
業は現在、長生殿前と綾部小  
学校の道路拡張が大幅に進ん  
でいます。

今年の十月十二日、綾機平  
で綾の聖地エルサレム大本歌  
祭りが開催されます。

この年、駐車場整備を春よ  
り九月までに土地整備を含め  
完了予定です。

綾機神社造営は、昨年十一  
月に三河本苑を造営された亀  
山建設を選定され、令和八年  
春起工、令和九年末に完成予  
定です。

令和六年は元日早々に能登  
半島地震が発生し、更に大雨  
での土砂崩れで大変な災害に  
あわれました。

第三災小三災も人の心の反  
映なりけりとの御神書にあり  
ますが災害に遭われた方達が

悪いことをされたかと思われ  
ますが決してそのようなこと  
ではありません。第一に日々  
神様を拝み、ご先祖さまを敬  
い、救いを求める人の心に寄  
り添い、ご祈願、み手代お取  
次ぎに努めましょう。

今年、宣伝使任命百周年  
に当たり、信徒の皆様で宣伝  
使に推薦して頂き、更に准・  
正に昇進され、ご活躍を期待  
いたします。

申請用紙はありますので多  
くの方達を推薦して頂くよう  
にお願いいたします。

必要な各講習会も追加で計  
画してまいります。

今年も明るい分苑を展開し  
てまいります。

そのためには、どうか一年  
の計は元日にありという諺ことわざに  
あやかり皆様の意見に傾聴けいちょうし  
て実行してまいります。

本日のご参拝  
ありがとうございます  
いました。



### 行事報告

#### ● 月始祭

十二月七日（土）

- 参拝者 二十五名
- 斎主 小林 清人
- 祭員 日比 達朗
- 祭員 畠山 亜美
- 祭員 森 満政
- 進行



- 祭員 妹尾 正治
- 祭員 日比 達朗
- 裏方 伊藤久仁男
- 典礼長 小林 清人
- 伶人 飯田 直美
- 伶人 岡田 幸子
- 伶人 澤田 淳
- 伶人 長谷川美枝
- 進行 石原 松生

月次祭後、機関長会議が開催  
され、令和七年度の教団方針・  
愛善会活動方針・分苑予算つい  
て高嶋分苑長より説明があつ  
た。

#### ● 月次祭

十二月十五日（日）

- 参拝者 三十六名
- 斎主 瓜生 秀明
- 祭員 仙頭 志音
- 祭員
- 進行



昨年12月7日に開催された総代会にて次のように予算が承認されました。

令和7年度 収支予算書

宗教法人 大本名古屋分苑

自 令和7年01月01日

至 令和7年12月31日

令和6年12月7日

収入の部				
科目	令和6年度予算	令和6年度見込	令和7年度予算	増減
玉串料	2,520,000	2,516,500	2,370,000	△ 150,000
本部交付金	760,000	745,851	700,000	△ 60,000
分苑維持献金	1,380,000	1,343,980	1,300,000	△ 80,000
雑収入	10,000	37,544	10,000	0
合計	4,670,000	4,643,875	4,380,000	△ 290,000
支出の部				
科目	令和6年度予算	令和6年度見込	令和7年度予算	増減
祭務費	1,030,000	669,170	1,030,000	0
玉串費	350,000	400,500	350,000	0
教化費	770,000	330,724	480,000	△ 290,000
総務費	1,430,000	1,051,406	1,430,000	0
維持費	760,000	770,677	760,000	0
厚生費	330,000	122,300	330,000	0
小計	4,670,000	3,344,777	4,380,000	△ 290,000
当期余剰金	0	1,299,098	0	
合計	4,670,000	4,643,875	4,380,000	△ 290,000

お知らせ

今年の節分大祭は二月二日です。分苑では人型受付のため、次の期間は日直を毎日、行います。(十時～十六時)

一月二十八日(火)～

二月一日(土)

行事予定

一月十九日(日)

月次祭 午前十時半より

二月一日(土)

月始祭

節分大祭遥拝祭

午後一時半より

編集部からのお願い

分苑たよりの原稿を公募しています。ご神徳談、日々のお出、来事など、お寄せください。

より充実した紙面にしたいと思っておりますので、今年もよろしくお願い致します。

じいじの道草雑話

【エッセイ】

特任宣伝使 妹尾正治

じいじは本や新聞を読んで心に響く言葉や文章をみつけては、書き留めたり、新聞を切り抜き、スクラップしてきだ。だが整理整頓が苦手だからメモもスクラップも時が過ぎるとどこかへ消え去ってしまった。

ならばエッセイの中に書き留めておけばいつでも引き出すことが出来ると閃いて「七十の手習い」の真似事を始めた次第である。

先日、中日新聞の「くらしの作文」と云う欄に七十六歳の主婦の「できることから」が掲載されていた。出だしはこうだ『泣いています。気が付いてしまいました。地下鉄の中で向かいの席に座っている若い女の人が目を真っ赤にしています・・・泣いています』

小学校の作文の時間に「起承転結」を口うるさく叩き込

まれたじいじにはとても書けない文章である。

あまりの上手さにショックを覚えた。

別の日、朝刊に載っていた辰野勇さんの『たった一行が心と化学反応すれば人生は変わる』と云うエッセイを興味深く読んだ。

彼は高校一年の時、教科書に載っていたアイガー北壁の初登攀記『白い蜘蛛』を読んだ。自分には日本人初の登頂者になる夢を抱く。

そして二十一歳の時、当時の最年少でアイガー北壁を登り切ったのである。

最後にこんな言葉が記されていた『本や新聞をたくさん読まなくても、自分の心に残った文章を大切にしたらいいと思う。たった一行が心と化学反応し、人生は変わるかもしれない』

じいじが書く拙文の中の一行でも誰かの心に残れば嬉しい。

